

平成 29 年度市民協働推進ニーズ調査事業の結果を踏まえた 平成 30 年度 市民協働推進モデル事業の提案について

平成 31 年度以降に実施される予定の石山公園のリニューアルに向けて、オープンカフェの常設や公園の整備、パークマネジメントによる公園の利活用の推進に必要な機能や課題を洗い出すため、平成 29 年度のニーズ調査事業では、3 本柱での調査を実施し、下記のような結果を得ました。

1) 石山公園での、現地利用者に対する「アンケート」(資料 1)

- ・来場のきっかけや目的として、目指して訪れる場所ではなく「通り道」になっている (⑦⑧)
- ・周辺施設や食など、「今これから」の回遊につながる「リアルタイム」な地域情報が届いていない (⑨)
- ・訪れた方への案内機能 (外国人観光客に向けた多言語対応やデジタル化など) の不足 (⑩⑪)
- ・現地でしか得られない生の情報を観光客は求めている (⑰⑱)

2) 石山公園でイベントや事業を実施したことのある企業、団体、行政担当者などへの「ヒアリング」(資料 2)

- ・案内機能の不足
- ・ロケーションの良さを楽しんでもらう工夫

3) 石山公園周辺エリア (カルチャーゾーン) にある文化施設の方との「意見交換会」(資料 3)

- ・回遊の起点として、周辺の文化施設へ訪れるきっかけづくりや情報発信の仕組みづくり
- ・観光客には、滞在期間中に計画を立てられる短いスパン (今日、明日) での情報が有効

このことから、石山公園を利用される地域の一般市民や観光客 (受益対象者) にとって、公園のリニューアルやパークマネジメント推進を目指すうえで、主に大きく二つの着目すべき課題が見えてきました。

着目課題 (A) : 石山公園の持つ場のポテンシャルを生かしきれていない

着目課題 (B) : 利用者が必要な情報を得られる手段が整備されていない



上記 (A) (B) の課題を解決する方法として、「情報」の受発信の仕組みづくりが必要であると考え、「情報の発信 (SNS の活用) と収集 (現地での生の声)」という点にポイントを絞り、今まで深掘り出来ていなかった事項について取り組むモデル事業が必要だと感じています。